

セッション「経済思想とビジネス・エシックス」

- [統括者] 佐藤方宣（大東文化大学ほか）
[報告者] 中山智香子（東京外国語大学），佐藤方宣
[討論者] 若田部昌澄（早稲田大学）
[司会] 小峯敦（龍谷大学）

[問題意識と概要]

近年、企業活動や労働力移動のグローバル化と共に、フェア・トレードや移民労働者雇用をめぐる問題などビジネス・経済活動の倫理的側面についての社会的関心があらためて高まっている。経営学や応用倫理学では「ビジネス・エシックス」がひとつのジャンルとして制度化されつつあり、専門雑誌の刊行、あるいは関連書籍の出版が進んでいる。

しかしそうした議論の高まりのなかで、ビジネス・経済の倫理をめぐる歴史的な議論の蓄積に対しては必ずしも十分な目配りがなされていないようにも見える。多くの書籍ではビジネス・エシックスの出発点を 1980 年代においているが、もちろん経済活動の倫理的諸側面をめぐる論議はさらに長い歴史的蓄積のあるものである。この歴史的・思想史的な基礎研究の欠落は、経済思想史研究者によって埋められるべきではないだろうか。

あらためて強調するまでもなく、自由競争のメリットとデメリット、国際貿易や労働移動、大企業体制をめぐる考察、そして労働・仕事・勤労の倫理をめぐる問題等は、経済思想の歴史の中で絶えず問われ続けてきた問題である。そして経済活動の「論理」と「倫理」を共に見据えて、歴史的パースペクティブのなかで論じることが、経済思想研究者が最も得意とするところであろう。このジャンルの知的資産は、経済活動の倫理の現在とその望ましい未来に関わる諸問題（フェア・トレードや移民労働者などグローバリズムをめぐる諸論点、巨大法人企業の社会的責任論、企業の中の個人の責任、成果主義賃金制や若者の働き甲斐など）を考える上で、有用な活用ができるはずである。

実際、こうした問題意識は、近年の研究動向にすでに見て取れるようにも思える。田島慶吾編『現代の企業倫理』（大学教育出版，2007 年），柘植尚則・田中朋弘・浅見克彦・柳沢哲哉・深貝保則・福岡聡『経済倫理のフロンティア』（ナカニシヤ出版，2007 年），関西大学経済・政治研究所・ビジネス・エシックス研究班（橋本昭一・安武真隆・小田淑子・杉本貴志・池内裕美・中澤信彦・森岡孝二）編『ビジネス・エシックスの諸相と課題』（関西大学経済・政治研究所・研究双書，2006 年）など、経済思想・社会思想研究者によるビジネス・経済倫理研究への貢献が始まっているからである。

本セッションもこうした動向に倣差すものではあるが、もう一步踏み込んで、それが経済思想史研究の側にとって意味することを具体的に考えてみたい。ふたりの報告者からの報告をたたき台に、討論者からのコメントを受け、一般討論を行うこととしたい。